

2023.11.16 (木)  
第 19 回例会  
(通算3734回)

## 2023-2024 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第85代会長 後藤 公貴  
副会長 樋口 貴広  
幹事 佐藤 貴之  
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00  
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル  
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F  
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2023-2024 年度  
国際ロータリーテーマ



世界に希望を生み出そう  
2023-2024 年度  
RI 会長 ゴードン R. マッキナリー  
第 2500 地区ガバナー  
鶴見 誠一郎 (紋別港 RC)

月間テーマ	ロータリー財団月間
本日のプログラム	「クラブ創立 87 周年にちなんで」(親睦活動委員会)
次週例会	「年次総会」(理事会)

- ロータリーソング：我らの生業
- ソングリーダー：土橋 賢一君
- 会員数 101 名
- ビジター 釧路北ローターアクトクラブ 小島 大輝会長・佐井 滉基副会長・岡本 省吾会計
- ゲスト

### 会長の時間



みなさん、こんばんは。冒頭、お知らせがございませう。

先々週の例会におきまして、次年度理事・役員立候補を募っておりましたところ、10 日後の先週に立候補がないことになりました。

速やかに指名委員会を立ち上げる流れになっておりますので、こちらから指名委員の皆さまにはご連絡を差し上げているところであることを皆さまにご報告ということでお知らせを申し上げます。

本日は北ローターアクトクラブの皆さま、お疲れさまでした。会長は 4 月よりもこなれてきましたね。成長を見るのが、とても楽しみです。僕はまだこなれていないものですから、うらやましく思っただけです。

先週 11 月 11 日に網走ロータリークラブの創立 70 周年記念式典にお呼ばれをして、吉田パストガバナーご夫妻、佐藤幹事とともに参加をさせていただきました。

久しぶりに口から心臓が飛び出るくらいに緊張をしました。祝辞が終わってホッとした夜、記憶がなくなるくらいお酒を飲みまして大変な目にありました。そんなことどうでもいいのですが、道中、吉田パスト

ガバナーから大変いいお知らせをお伺いしましたので、皆さまにお伝えをしたいと思います。先日、釧路交響楽団の演奏会が釧路で開催されたということで、吉田パストガバナーが観覧したそうです。そこで、清水輝彦君にバツタリお会いしたそうです。いろいろお話をしたそうですが、ご本人は「記憶の方がまだあいまいで、リハビリを頑張らなければいけない」とおっしゃっていたそうですが、吉田パストガバナー曰く、「少し頭の悪い奴よりも、全然大丈夫だ」くらいの素晴らしい回復具合、言葉は悪いのですが、倒れられたのが不思議なくらい回復度合いだということです。受け答えもはっきりされていて、もちろん車椅子ではなくご自分で歩いていられたそうです。

清水幸彦先生のお別れ会の時に、奥様が「年末くらいの例会には何とか参加できるように頑張りたいと、本人も言っていることを伝え聞いた者として、清水輝彦君が仕事のことや、ご家族のことや、ロータリーのことや、そしてご自分の趣味のことや、まだまだやりたいことに向かって一生懸命リハビリで努力している姿が容易に想像できるものですから、ホントに嬉しく思っておりまして、私からも輝彦君に、なんとか早めに例会に来てくださいとお伝えしたいと思っております。メールでも電話でも構いません、近い関係の方はそうやって促していただいて、一日も早い清水輝彦君の出席を祈りましょう。

本日は「創立 87 周年にちなんで」ということで釧路ロータリークラブの 87 回目の誕生日を迎える日です。札幌ロータリークラブ、帯広ロータリークラブからのスポンサーを受けて 87 年、これまでたくさんの方がいろいろな努力をされて、こうして楽しいクラブになっていることをみんなで語らって、本日も有意義な時間にして 88 年目の明日の一步目を始めてまいりましょう。本日も美味しいお酒を皆さんと酌み交わしたいと思います。本日より、よろしくお願いいたします。

### 幹事報告 佐藤 貴之幹事

皆さん、こんばんは。先ほど後藤会長からありました「網走ロータリークラブ創立 70 周年記念式典」に参加してまいりました。こちらは「70 周年記念の盾」をいただいております、クラブ事務所に飾っておきますので皆さん、ご覧いただければと思います。今週 19 日の日曜日、釧路交響楽団の定期演奏会があります。ご招待券が 2 枚届いておりますので、ご興味のある方がおりましたら本日中午に私まで声を掛けてください。

### 活動報告 釧路北ローターアクトクラブ

会長 小島 大輝君

皆さま、こんばんは。釧路北ローターアクトクラブ会長の小島 大輝と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。



本日は 7 月の表敬訪問の時にお邪魔させていただいてから 2 回目の釧路ロータリークラブ様の例会に訪問させていただきました。本日は、貴重な時間を割いてお話をさせていただく機会を設けていただきました後藤会長、佐藤幹事をはじめとする釧路ロータリークラブの皆さま、本当にありがとうございます。

本日、私たちローターアクトクラブから活動報告ということで、本年度の 7 月から 10 月までの活動のご報告をさせていただきたくお邪魔させていただきました。

私のつたない説明と限られた時間の中では十分にお伝えすることは難しいのかなと思いましたが、皆さまの各テーブルに私たちの現時点の活動報告を配布させていただきました。お手すきの際にご覧いただければと思います。

私からは 2 点ほどをご案内させていただきます。

1 点目は、直近の 2 回の例会をご報告させていただきます。9 月 26 日に開催しました今年度の第 6 例会と、10 月 29 日に開催しました第 7 例会、資料の後ろの 2 ページに記載されています。

この 2 回の例会、どちらも「ポリオウイルスの根絶活動」をテーマに掲げさせていただいております。私たちローターアクトクラブも 2019 年の R I 規定審議会の決定がありまして、現在、R I に加盟させていただいているクラブのひとつとなっております。R I の活動であったり、第 2500 地区のロータリークラブの皆さまがどのような活動をされているのかを知る機会が増えて来まして、今年度の鶴見ガバナーが重点目標のひとつに掲げられているのが「ポリオウイルスの根絶」ということで、私たちも「ポリオウイルスの根絶」に向けて何かできないかと興味を持つようになって今年度の例会を企画しました。

第 6 例会では、ポリオウイルスはどのようなウイルスで、現状、世界ではどのくらい残っていて、根絶に向けてどのような取り組みをしているかを学びました。

その後、10 月 29 日の第 7 例会に私たちローターアクトクラブが毎年開催している「ハロウィンイベント」、小学生を対象にした、本物のかぼちゃをくり抜いて「ジャック・オー・ランタン」を作るイベントですが、そのイベントの中で参加していただいたご家族の皆さまに、「ポリオウイルスはどのようなウイルスか」「いま苦しんでいる子どもたちがいる」「寄付することによってワクチンが買える」という説明をして、実際にご寄付を募る取り組みをさせていただきました。

この活動報告書にも書いてありますが、結果は大多数のご家族の皆さまから 33,788 円の募金をいただくことができました。

この活動をとおしてアクトならではのやり方で少しずつでもポリオウイルスの根絶や奉仕活動にできれば良かったと考えております。

最後に、会員数の動向についてご案内させていただきます。今年度は会員数 16 名からのスタートとさせていただきました。現在、新入会員が 3 名、退会が 2 名あったので 17 名の会員数となっております。17 名なので運営するうえでは、ある程度の人員が確保されていると見えるかもしれませんが、年齢層が大きく偏っております。26 歳未満の会員は非常に少なくなっておりまして、学生だったり、営業をされている転勤族の会員だったり、数年後には卒業・転勤でアクトを離れてしまう会員が多いです。

今年度、あるいは次年度に関しては、ある程度運営の体制の目途が付いているような状況ですが、2 年から 3 年後に関しては会員数が大幅に減って、事業の継続に大きな支障が出て来ると、表敬訪問の時にもお話させていただきましたが、会員増強を避けて通れない部分と考えております。

釧路北だけではなく、道内のローターアクトクラブはほとんどが会員数の減少によって存続が危ぶまれて

いるような状況にあります。記憶に新しい事例として、4年前に斜里のローターアクトクラブが終結して、2年前には根室のローターアクトクラブが終結となっております。いずれも、理由は会員不足によるものです。このご時世、ロータリーに限らず、どの会社様も若年層の働き手が不足しているとは存じ 出すことに懸念を感じている方もいるかと思うのですが、ここからは私の実体験の話になるのですが、アクトに入ることと友達とかではなく、同年代の、かつ異業種で働いている方、自分で起業している方と接する・交流する機会を持つことは貴重なことと考えています。自分と違う所で働いている人たちの考えに触れることで僕自身は視野が広がったなど実感する機会もあり、「こういう人たちは、こういう思いで働いている」「この人は若いのに、こういう気持ちで起業したのか」とすぐ参考になることもあり、自分の仕事の中に還元できる経験と個人的には考えております。

本日お越しになっている皆さんの中で、いま頭の中でピンと思いつく方がいらっしゃれば、ぜひ私、あるいは幹事の佐井会員にご連絡いただければと思います。その時は、飛びついて、飛んでいきますのでよろしくお願ひいたします。

最後になりますけど、今後ともより一層のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

本日はありがとうございました。

## ■本日のプログラム■ 「クラブ創立 87 周年にちなんで」

### 親睦活動委員会 濱口 憲太委員長



皆さん、こんばんは。首の手術から丸3カ月が経ちまして、だいぶ調子が上がってきました親睦活動委員会の濱口です。

本日のプログラム

夜間例会『クラブ創立 87 周年にちなんで』を開催させていただきます。今から 87 年前の 1936 年（昭和 11 年）11 月 23 日に、当時平均年齢 40 歳を少し超える若いチャーターメンバー 30 名のもと、釧路ロータリークラブは創立をされました。道内では 7 番目、国内では 26 番目、世界では 4092 番目に創立をされました。

その由緒正しき歴史と伝統の重みと、輝かしい活動の軌跡は 87 年間脈々と今日につながっております。

本日の例会では、創立からクラブの歴史と伝統、90 年の節目に向かって会員皆さまでロータリーを大いに語らいながら楽しく、大切な時間にしてまいりたいと思います。

それでは、はじめに釧路ロータリークラブの軌跡について動画を作成しましたのでスクリーンにご注目ください。

（動画上映）

### 乾杯のご発声 石田 博司パスト会長

ロータリークラブに入っていて嬉しいことのひとつは、新しく入った方がこぞって「いいクラブに入った」と言ってくれることです。ロータリーに入ったから売り上げが上がるわけではないので、嬉しさがそこにあるのではなくて、われわれの釧路クラブの雰囲気にあるのだと思うのです。そうすると「入って良かった」といわれると、自分が褒められたような気がしてしまい、とても嬉しいのです。

誰がそういうクラブにしたのか。別にどのクラブと言いませんけど、比べて「釧路クラブがいいですね」とおっしゃるのです。他のクラブに入った者から聞くと「随分、雰囲気が違いますよ」と言うのです。

なぜこういう雰囲気になったのか。私のスポンサーは吉田潤司パストガバナーですけど、もちろんスポンサーをしていただいた時にはまだガバナーではなかったのですが、吉田さんから昔話をよく聞きました。吉田さんが入ったころは、「うるさい年寄りがいて、ホントに嫌というか、嫌になりほどうるさかった」と言うのです。その様子を聞いていると、「将来、自分がベテランになった時は、あんな年寄りになりたくない」と思った人がこの空気を作ったのではないかと私は思うのです。と言ったら、天方君が「僕はそうではなくて、この雰囲気を作ったのは清水先生ではないかと思っています。他のクラブではパストガバナーがもっと存在感を出して、仕切って指令ができるみたいですけど、清水先生は作らなかったからそういう雰囲気になって、その後に小船井さんがなってもお人柄がよろしく、そういう雰囲気を作らなかった」。だから、天方君が「この釧路クラブの雰囲気を作ったのは清水先生ではないか」と言うのですけど、まあ、それもあるでしょう。

いずれにしても、類は友を呼びますから、今いるわれわれが新入会員の方を集めていると思って間違いないと思います。よそのクラブは、それなりにそういう人が集まっている訳ですから。

ということで、どうか新入会員の皆さま、転勤族の方を含めまして、いい雰囲気の釧路クラブの伝統をつないでいってくださいますように心からお願ひ申し上げます。

では、乾杯をさせていただきます。

87 周年、おめでとうございます。

（おめでとうございます）

## ご挨拶 小船井修一パストガバナー



歓談中、恐れ入ります。委員長は本当に真面目な方で、何回もメールをいただきまして、準備をさせていただき形になりました。こういう

飲む場で硬い話になって申し訳ありません。10分ほど時間を頂戴して、原稿を用意してありますのでホームページに掲載させていただきますが、お話をさせていただきます。

釧路クラブのホームページで「歴史と伝統」というバナーがありますので紹介させていただきます。

釧路ロータリークラブが創立されたのは昭和11年(1936年)で、道内では7番目の誕生です。日本国内では26番目、世界では4092番目となっています。北海道では1932年(昭和7)の札幌に始まり、昭和8年小樽、9年旭川、函館、10年帯広、11年室蘭、釧路、12年北見の順で主要都市8クラブが誕生しました。1941年10月10日国際ロータリーを離脱し釧路職域懇談会として活動しました。

1950年10月2日再加盟し、チャーターメンバーの中でリチャーターメンバーとなったのは6名でした、私が入会した1984年当時では村上裕二会員おひとりだけになっていました。

戦前のロータリークラブ(日本の2つの特質)

アジアで最初に設立されたロータリークラブ1919年6月設立のマニラロータリークラブ、私が知りえる範囲で設立順では1919年10月設立の上海ロータリークラブ、1920年1月認証のカルカッタロータリークラブで、1920年10月20日設立の東京ロータリークラブはアジアでは4番目に設立されたと思います。東京ロータリークラブはマニラ・上海・カルカッタのクラブとは大きな違いがありました。

それはマニラ・上海・カルカッタとも英語クラブであったことです。因みに1930年設立のタイ・バンコクロータリークラブも英語クラブでした。これは海外から赴任した欧米人を中心としたクラブであったことを意味します。

東京ロータリークラブはその意味で全く違いました。日本語で運営され、チャーターメンバー全員が日本人だったのです。

そして1905年2月23日創設されたシカゴロータリークラブとも会員構成で大きな違いがありました。シカゴロータリークラブの創設メンバー4名の職業は、弁護士、石炭商、洋服商、鉦山技師(山師)であり、シカゴを代表する人たちではなく一般市民で構成されていたのです。

一方

東京ロータリークラブの初代会長は米山梅吉、幹事には福島喜三次でした。

米山梅吉氏は1924年三井信託創設の初代社長でした。

28名のチャーターメンバーには日本銀行を始めとした金融機関、SF作家星新一の星製薬社長、一ツ橋大学の前身東京商科大学校長、三越、三井鉦山、北海道炭鉦汽船等の三井グループ各社で構成された錚々たるメンバーであったこともシカゴのチャーターメンバーとの違いだったのです。

20世紀初頭の世界は「敵国主義の時代」でした。

フィリピンはアメリカの植民地インドはイギリスの植民地、上海は疎開の中で日本を含む英米列強によって支配されていました。

独立国だったタイのバンコクロータリークラブでさえ英米中心メンバーによる外国人クラブだったのです。

1927年創設の京城(ソウル)ロータリークラブもチャーターメンバー21名の内日本人が17名で韓国人は4名だけだったのです。

日本のロータリークラブは自国民中心で構成され、地域の代表的な人々が入会するステータスの高いクラブでした。いわば、包摂的なインクルーシブなクラブではなく、排他的なエクスクルーシブなクラブでした。未来を見据えて

戦後、1950年10月国際ロータリーに復帰した釧路ロータリークラブは順調な成長を続けました。また、ロータリー活動も成長期を迎え釧路北クラブを始めとした9クラブのスポンサーとなり、地区ガバナーも両角氏を入れなくて4名のガバナーを輩出しました。私達釧路ロータリークラブは

今まで述べてきました「歴史と伝統」を踏まえ、未来に向けていかなければなりません。

2026年の90周年には記念事業や式典等の諸準備と共に未来に向けた諸準備をしなければならいと思います。

構造主義の創設者レヴィ・ストロースは日本の文化を「過去の伝統と現在の革新の得難い均衡」を比類ないものとして高く評価し全人類が学ぶべきとしました。私達も未来を創るために過去の歴史と伝統を踏まえて革新をしていく事が大事であると思います。

以上、私からのお話させていただきます。

## ご挨拶 吉田 潤司パストガバナー



皆さん、こんにちは。小船井さんの後に話をするのはホントにつらいのです。小船井さんと私の大きく違う所は、何かロータリーのことを

聞きますと、必ず「手続き要覧では・・・」と話して来るのです。ですから、間違えたことは言わない。ちょっと分からないことは日本事務局に確認して、「これは、こうです」と。しかも、メールで切り取った所をポンと送ってくることで、とてもきちんとしてくれます。今日の話も多分間違いはないと思います。私は、そういう話は全くできないので、時に話が自己流の話ばかりするので心配なのです。

小船井さんは、いまはパソコンをおしゃれにやっていますけど、1996年ごろは私の方がずうっと上だったのです。小船井さんはパソコン、あまりできなくて、私はその時まだビルダーのない時にクラブでホームページを作ったのです。その時に小船井さんが熱心に見ていて、それで少しずつ追い越されてしまって、ホントにある日突然追い越されました。私は後退ばかりしましたから、小船井さんはある時に「メールで写真が来た」と言って、今では当たり前のことですがね。

それから、小船井さんは会議に行きますと、パソコンをこうやっているのです。他のクラブの多くの人たちには「キザな奴だな」と思われていたのですが、実は違うのです。話していることを全部要約して、総理大臣の記者会見の時には新聞記者はすぐ原稿を作っていますけど、小船井さんのそれはすごいのです。ですから、私が何かやる時には小船井さんと一緒にやると「終わります」までの原稿ができています。すごいです。

「吉田さんは早いね」と言われますけど、実は小船井さんに書いていただいたものですが、そういうスゴイ人だったので、褒めてばかりいますけれども、ホントにスゴイのです。小船井さんに負けないように話そうと考えましたが、無理だから止めます。

今日は、90年・100年に向けて「私の想い、このようにしてほしい」を話します。これは私の独断の話ですけど、話させてもらいまして参考にするのがあればぜひ参考にしてもらいたいと思います。

70年の時の釧路ロータリークラブの会員は98名で、登録は498名も登録したのです。懇親会に375名が出ましたけれど、実にお金がかかったのです。驚くなかれ、1000万円を超えたのです。当時の積立金で606万円くらいあったのですが、その他のお金は「登録料」と言いますから登録して出してもらっていますから、登録料1万円を取ったのですけど、その詳細は定かではありません。

私は、今回これをやります時に、私が実行委員長だった70周年の本をいろいろ読みまして、こうだったのだと。その時に集まって話をする実行委員会と長老の人たちと2回、別々に話しました。その時にいろいろ話をしたのは、結局は70周年記念式典の反省会みたいになったのです。その時の内容を今日、皆さまにお話したいと思います。

会員増強というのはどこにでも出てきます。私がガバナーをやりました時にも多くのクラブに行きました。公式訪問した時に「ガバナー、そんなに会員増強を言わないで、もっといいクラブを作ってから、みんなが憧れるクラブを作って人を入れたらいいのではないか」という話はいろんなクラブで言われました。

でも、皆さん、憧れのクラブというのはあるのでしょうか。私はないと思うのです。どんなクラブを作っても、今の時代はいろんな会がたくさんありますから、みんながクラブの評判を聞いて「入りたい」という人は参考にするかもしれないが、昔のように定員制をひいて「空いたら入る」というような、入れてもらいたいという時代は地方ではないと思います。全国的に見ると京都ロータリークラブ、東京ロータリークラブなど大都市のロータリークラブにはある程度ありますけれど。

私は、会員増強についてお話を聞くときに、「みんなが憧れるクラブを作りたい。それが先なのだ」と。卵が先か鶏が先か、それが先だと。「そういうクラブを作って自然と入ってくる人を待たばいいのだ」という人がいましたけれど、これは、私はナンセンスだと思います。それから「誰でもいいから入れればいいじゃないか」「これはダメなのだ」という人もいましたが、私はこれもナンセンス、違うと思います。それから「定員制を設ける」。地方で「釧路クラブが定員100人にして、1人が空いて99名になったら1人を入れるとしたらいいじゃないか」。これも私はナンセンスだと思う。無理だと思いますね。やはり、数は力なりです。数を集められなかったらダメなのです。「ロータリーに入りたい」という人は、おかしいかもしれないが「入ることによって、学びたい」という人かもしれないです。ですから、入りたいという人を閉ざすことはダメだと思う。入れてしまって、増強して、そして立派な人たちがいるのを見て、勉強をする。そして、いいロータリアンに育っていくことが大事でないかと思いません。

私の個人的な考えですけど、入りたい人をシャットアウトするのは止めて、どんどん増やすべきだと思います。うちのクラブも、私がガバナーになりましてから、あと何年か後にはまたガバナーが出ます。ガバナーの使命のひとつには「新クラブを作りなさい」という使命があるのです。でも最近是新クラブができて来ないのです。これは、100人のクラブを130人位にして、そこから分割をして30人40人を移して新クラブを作ることが普通のやり方なのです。

札幌の幌南ロータリークラブは30人から60人位になるとすぐ分割するのです。新しいクラブをどんどん作るのです。こういうクラブもあります。これが普通ですが、うちのクラブも90年100年の時にはたくさんの人を入れて、分割をして「さすが、釧路クラ

ブだ。いま新しいクラブができない時にさすがだ」となって欲しいし、やるべきだと思います。

新しいクラブを作ると、総論は賛成「新しいクラブを作るの、いいじゃない」、各論では反対。これは全国どこでもそうなのです。釧路クラブがもし新しいクラブ、釧路新ロータリークラブを作ったら、「私は作るの賛成だが、私は釧路ロータリークラブに残りたい。新クラブには別の人が行ってください」となってしまって、「なかなか、うまくいかない」という話も聞きました。これはやりようで、いろいろあると思います。

私は台湾のロータリークラブはあまり分からないのですが、台湾に行った時に、長老の人たちと若い息子さんたちのクラブとがあって、時々一緒になって例会をするという、和気あいあいにやったというのがあります。これもスタイルだと思います。

新しいクラブを作るということは90年100年の中で、ひとつの目標にしてもらいたいと思います。私は最近の「流行りはんてん」のように衛生クラブを作ったというのには反対なのです。衛星クラブを作ったうまく行っているという話は聞いたことがないのです。やはり、作るならロータリークラブを作ったそこに若い人に入ってもらうのが一番いいと思います。これをお願いしたいのがひとつです。

二つ目は、100年になりますと大台なお金がかかってくると思います。これをどうするかも大きな問題ですが、座談会の私の時の反省の中で「スタートが遅すぎる」。来年行こうとなったら、例えば、文化会館やまなぼつとの予約となれば「1年以上前から日程が埋まる」と言われたのです。例えば90周年の時に会長エレクトが決まれば、その段階で実行委員長、実行委員会を作って準備をしたほうがいいと言われました。この本の中にたくさん出ていました。

私がやった時にはスタートが遅くて、テーマは『明日に続く道』というテーマを作ったのですが、このテーマを作るのに延々と時間を費やしてしまって、テーマより先に、予算はいくらか、何人くらい集めてやるのか、会場をどうするか、日程をどうするか、を決められる大枠を早く決めないと必ず遅れをとってしまいます。これをやってもらいたいです。

90年の節目ですから盛大にやるかどうかを別にしても、13年後には100年になるのです。この時は多くの皆さんが残っていると思います。この100年の時にどうするかは多少でも前倒しをして準備して考えて行かなければならないと思います。

私は今日の話をするときにも、記念誌を読んできたのです。すると、記念誌は記録なのです。私が70周年をやる時には、50周年の記念誌があって中味をいろいろ見ていて参考にしたのです。記念誌はきちんと作ることは次の時にも必要になってきますので、記念

誌を書いていただきたいです

うちのクラブでは「会報」、クラブの唯一の記録誌なのです。なにかある時には必ず会報を見て、「何やった、どうだった」と見るのですが、丁寧に会報を書いている方もいますし、実にあっさり書いてもいます。私が嵯峨記念育英会の理事長をやっていた時に、育英会の整理をしようと思って、ずーっと昔の資料を見ながら、名前と学校を調べて行きましたが、だいたいの所は書いてあるのですが、ある時には「嵯峨育英会、5名結成」としか書いていないのです。名前もなければ、生徒もない。学校に聞いても「分かりません」ということで結局、空白ができてしまうのです。ですから、記録誌を作る担当の人は「記録だ」と考えて、できるだけ詳しく書いてもらいたいです。

特に「今回、予算がたくさんかかりました」と言いましたが、登録料だったのか、果たして登録料1万円をもらったのか、詳しくは出ていないのです。その他にどのような費用がかかったのか、もあまり書いていないのです。総費用が1,150万円位かかっているのです。それももう少し詳しく書くべきでないかと思っています。

私はふたつ、記録誌の大事さを確認いただきまして、記録誌を作っていたいただきたいということと、会員増強については、数は力なりということで、門戸を広く開けていただきたいです。

私が入りました時の山下会長はいつも例会の時に「会は増強しなければ必ず衰退する」という話をしていました。増強するという事はクラブの活性化のためにもなります。

ここにこのようにいい人がたくさん集まっている中で、「おかしな人が入ってきたら雰囲気は乱れる」という考えを持つ人もいます。これは小さいクラブになればなるほどです。10人位のクラブを訪問しますと、今すぐくいい雰囲気、みんなでワーと言えばワーとなる。「これを壊したくないから、新しい人は入れたくない」というクラブもあるのです。そんなこと行っていたら必ず年をとって亡くなってしまいます。会員増強について私は門戸を広げて、私は誰でもいいのです。「入りたい」という人で変な人間は、わざわざ高い金を払って入るといふ人には変な人間はいないはず。やはり、何かを学びたい、何かを吸収したいという気持ちで入って来るといふので、門戸を広げて130人140人のクラブになって、分割して新しいクラブを作るようにしてもらいたいと思います。できれば100年の時まであと13年ありますので毎年2人～3人増やして行けば30人は楽に超えますので、ぜひ新しいクラブを作って、堂々と「釧路クラブ、ここにあり」を作っていたらいいと思います。話は、全部お願いをすることばかりでしたが、以上です。

ぜひ、この後 80 年の話もありますけれども、3 年後には 90 年が来ます。13 年後には 100 年になりますので、いろいろな準備のことを頭の隅に置いていただければと思います。

記念式典の挨拶としては、あまり意味のない話ばかりでしたが、私の想いを伝えました。ありがとうございました。

創立 60 周年  
(動画公開)

### 創立 60 周年記念実行委員長 泉 敬パスト会長



写真は若いですね。28 年前になり、記憶も確かでなくなって怪しげになってきているのです。思い起こしますと、大久保前会長から私

に実行委員長の指名がありました。60 周年の前の年ですね、それは相当慌てました。ということは「1 年間で準備しなさい」とかなり厳しいわけです。予算も 300 万円だったのです。私たちは「50 周年を迎えた後、記録がないので何とか記録を残したい。60 周年記念誌を作ろう」と。すると、50 年から 10 年間のブランクがそれで埋められるのですが、それを行っておかないとその後がまた大変になるのが当然あるわけです。

振り返ってみますと、このクラブの周年記念は 25 周年からやっているのです。これは「記念を行った」というだけで、特に記録を残すことは一切やっていないのです。30 周年、40 周年と一応祝賀会を行って、記念品も贈呈することは行ってきているのです。ただし、記録は残していない、記念誌は作っていない。50 周年になって初めて「これは、まずい」となって 50 周年誌を作ったのです。50 周年にいた人には配布したわけですが、50 周年誌をお持ちの方はおそらく、この会員の中には何人かしかいない。私が数えたところ 5 人ほどしかいない。

河合君、小船井君、吉田君、元ガバナーは 2 人いて、立派な布張りの 50 年誌を会報として皆さんに配布したことがあります。

ぜひ、70 周年誌も 80 年誌も作ったので、90 周年誌も 100 周年誌も作っていくべきだと思っています。これは、なんとかやってほしい。

60 周年の時には急に決まったことで、メンバーも前の年に決まったのですが、これを実行するとすると日程的なことも、金銭的なこともあるし、場所の確保もしなければならず、そういう割り振りも全部行いました。60 周年をやった時に 50 周年から 60 周年まで

にいた人は数少ないですから。60 周年の時に在籍していた方は手を上げてください、何人いますか。おそらく 10 人いないでしょうか。

私が 60 周年をやった時に、50 年から 60 年に会員がどのように移動したかに関心があって調べました。50 周年の時にいた 95 人が 60 周年の時に残っていたのは 45 人しかいなかった。10 年の間に半分が入れ替わった。釧路の会員はご存知のように他のクラブに比べて転勤族が多いです。早い人は 2～3 年で代わってしまう。転勤してしまって、新しく会員として入る。同じ企業の中での入れ替わりがあります。10 年経つと当然必ず入れ替わりがあるのです。その結果だと思いますけど、半分以下という現実があります。そのことをとらえて、計画を立てていただきたいです。

例えば、当時は 300 万円でやりましたが、そのあと、1000 万円もかかっているとすると、単年度でその資金を集めるのは不可能です。あらかじめ、準備をして、必要な備えを今から 90 周年に向けて準備を始める措置を取らないと。単年度でやることは無理と思います。

60 周年の時に記念事業として、ロータリーカップにまだ優勝旗がなかったのです。優勝旗を何とかして作りたいと考えましたが、これはその予算の中からはどう考えても出ないのです。それで、急遽、奉加帳を作って会員に回したのです。奉加帳に名前と金額を書いてもらったのです。幹事が 2 万、3 万と書いて、みんなはそれを見て俺も、俺もと。3 回の例会で 110 万円が集まったのです。皆さん、金を持って歩いているのですね。

110 万円は優勝旗を作るのには多すぎるのです。横断幕とカップと一緒に作ってロータリーカップに提供することになりました。これは記念事業の一環としてやりました。

金の問題は嫌だけれども、やはり集めて行かないといけないと思います。会長は大変だけれど、単年度で、その時の会長に全部かぶせるのは大変だということ認識して置いて欲しいです。どんなふうにしても、かかるものはかかるのです。

いろんなことをやっている年度があります。40 周年の時にマリントポスに寄付したり、今まで救急車を贈呈したこともあったのです。こういう事業をやろうとすれば、それなりに資金が必要になって単年度では難しいことがあって、ロータリークラブはほとんど引継ぎをしないのです。引継ぎをしないで次の年度にポンと預ける。すると会長以下、担当者は勉強しないと間に合わないのです。そういう意味では、予算決算も滅茶苦茶です。それぞれがそういう風に預けられてきても皆さんは新しい年度にきちんと計画を立ててやっています。

前のは参考資料になりますけれども、引継ぎで事業を引き継ぐことはないのです。これは原則としてやら

ないことになっている。引き継いでほしいものは肩たたきのように次期の会長にお願いをしておくことはありますけども、実際は、その年度の事業はその年度が決めて行います。どの人が会長をやっても皆さん、上手に困難を切り抜けて運営して来ているのがロータリークラブです。

これは一人でやるわけではないし、これは職業を通じて奉仕の精神で理想を追求しながらやっている皆さんの友愛の中でお互いに助け合ってやって行くお陰で、こういう形が維持できていたのだらうと思います。

昔は、私が入ったころはかなり厳しい時代がありました。会に入ること自体が大変だったのです。入会させるのに「金を貸している者はダメ」、「妾を持っている奴はダメ」、飲食店も同じでした。いま時そんなのはないと思うのですが、推薦があっても2年位おかれるのがあったり、同意を得るのが大変な時代もありました。

そんなことがあって、今の会員はたくさんに入れ替わりがあります。新しい会員については、50周年を引き継いで、どうやって70周年に渡すかという節目でしたのでやっとなと理解してもらえれば。難しい話は何もないのです。ただ、大変だったのは金銭の問題でしたので心得てもらえればと思います。

#### 70周年記念実行委員長 吉田 潤司パストガバナー

また出てきましたけど、簡単に。本当は青田君が話すことを楽しみにしていたのです。どうしても出られないということ。



これは会長が青田年度だったのですが、大変な年だったのです。当時はパシフィックホテルで例会をやっていました。私たちが11月の式典をパシフィックホテルでやった時には、そういう話は知らなかったのですが、パシフィックホテルは12月に倒産をしました。それは青田君には突然の話だったものですから、大変な思いをしたと思います。急いで例会場を探さなければならず、事務局をどうするかがあって、この年が2006年でした。

例会場は当時キャッスルの社長の反保さんがいたのでスムーズに移行できました。事務局の場所がないということで三ツ輪ビルに移しました。大山さんも一緒に三ツ輪ビルに引っ越しました。これは定正君の努力のおかげで引っ越しができたのです。

これが大きな出来事でした。

記念講演は実行委員会を作った時に「記念講演は必ず行いたい」ということで記念講演の実行委員長を滝越さんにおねがいしました。講師を誰にしようかと、

標茶に住んでいる有名な芸能人でしたが忙しくて日程が合わず、そこで「ロータリークラブは経済人の団体だから経済人を呼ぼう」となり候補に挙がったのがホームマックの石黒社長でした。当時の石黒さんは9月に「カーマ」と「ダイキ」と合併して大変忙しい時期だったのです。

「講演なんか受けられない」ということだったのですけど、滝越記念講演実行委員長が頑張って口説いて、口説いて「人間万事塞翁が馬」の話でしたが石黒さんの苦勞と現状、将来の展望について感銘深い記念講演でした。これは一般公開して大変好評だったのです。

この間も、網走の周年事業に行きました。緻密でとてもいい式典でした。式典と懇親会で、挨拶と表彰、終わったら懇親会で少し重みがないなと思って、うちの70周年は重みがあったかどうかは別ですが、記念講演を入れたのが良かったと思っています。

この二つが思い出に残ることです。

三つめは個人的なことで、70周年記念式典をやるということで、FMくしろに行きました。時間を取ってもらって私と青田君がお話をしようと思ってきました。青田君は行く前には、「俺は最初に挨拶して、あとは吉田がやれ」という話でしたが、いざ始まると「青田です。実行委員長の吉田です。から残り19分は全部青田君がしゃべりまして、もの見事にしゃべりましたけど、中味はいい話をしましたので良かったなと思います。この当時の釧路ロータリークラブは大変勢いがありまして、青少年の交換事業もずっと続けていて、この時はシューニカーンというアメリカの男の子が来ていました。米山奨学生には趙偉紅（チヨウエイコウ）さんが来ました。その後も、その前も続いていたのですが、どこで途絶えたか中断していて残念だなと思っております。

70周年の時には稚内からも来ていただきました。随分たくさんの人に来ていただきました。

私達も、その時のことを覚えていて、どこかでお返しをしなければならぬと思います。

最後にもう一つ。網走の創立式典に行きまして、うちの会長が挨拶をしましたけれど、これはもの見事に、みんな感心しました。素晴らしかったです。みんなに聞かせてあげたかった内容でした。時系列がはっきりして、とてもいい挨拶だったことをお伝えして終わります。

#### 創立80周年 木下 正明パスト会長

皆さん、こんばんは。なかなか喋りづらいところもあります。

80周年を実行するにあたって私が会長





でいいのかがあって、脇さんがいいのではないかと。人事の脇さんは釧路クラブで有名ですのでそういう方がまとめてやっていただいた方が良いとか、いろんなことがありました。

結局、2年前に会長の指名が固まったなかで、準備が遅れたとかがありますが、だいたい2年前にどんな事業をやるかを会長が考えないと案が出ません。

私が考えたのは、70周年で石黒さんに講演していただいたので、影響力がある方に講演をしていただきたい。私が少ない経験の中で面白かったのは例えば桑田真澄さんとか尾木ママだとか、あとは林先生とか、桜木紫乃さん。あと私、NHKの番組審議会委員で4年間やらせてもらっていたので。石黒さんの時は滝越さん本当に頑張っていたので決まった経緯があります。

その中でどうやったらいいか、私が会長になる前の年の11月くらいに会長に決定するぐらいのタイミングがありますので、その時に情報集会を西村さんにやっていただいたり、80周年に向けてどういう事業をやったらいいかの例会をやっていただいたり、後藤さんには早い時期にやっていただいたのかなと思います。まずは会場を押さえて、講演者の候補を決めて、ある程度打診をしました。それぞれすべての方に打診をさせていただいて、J Cさんが林先生を呼んでしまったのです。桜木紫乃さんも結構釧路市内に来ることがあったり、いろんな尾木ママさんに結構左寄りかな、それはちょっと置いて。

そんな中で2012、2013年に釧路の算数や数学の学力がものすごく低いという結果が分かったのです。その算数や数学が低いというのは、もともと国語力がないからと、林先生と数学の先生と一緒に講演していただくというのも候補に挙がっています。

ちょうど釧路の付属中学校を出て名古屋大学に行かれて、東進ハイスクールに行かれた志田昭先生がおりまして、その方のネプリーグだとか、いろんな番組に林先生と一緒に出ていて、番組を賑わした地元の方でもあるのでその方を呼びたいと。林先生とセットで呼ぶつもりだったのですが、林先生はJ Cさんに来られたこともあって、これは二番煎じで辞めて。

では、志田先生に話をさせていただくには何がいいかといったら、数学検定を当初1万2,000人にプレゼントをしよう。要するに、釧路の小中学生全部で1万2,000人なので、算数の成績が悪いのだったら、全員に数学検定プレゼントしようというのを頭に入れながら僕が80周年やるのは2016年の11月5日です。2015年11月の情報集会で皆さんに「どんな講演者を呼んで、どんな事業者をやったらいいか」という情報集会があって、その中で皆さんがいろんな桜木紫乃さんが良いとか、こういうのが良いとか。アイスホッケーが良いとか。いろんなすごいアイデアが皆さんの

中に出てきた。会長だったのである程度選ばせていただいて、次の年の7月くらいから実行委員会が立ち上がった中で、こんなふうに行って行ったらどうだと説得をさせていただいて、事業をさせていただきました。メインの事業はその志田先生の講演会で、皆さんに動員していただきまして、大体600名位集まったと思うのです。多分それぞれの通勤族の方、すごく自分の会社の方を10名や15名呼んでいただいて、ただ内容はすごく素晴らしくて、ちょっとあまり時間がないので例会報など見ていただければと思います。

それと、そこで終わるのではなくて、数学検定を1万2,000人分プレゼントしようということから始めて、あと地区の補助金を使ってその後の3年間ですね。都合4年間で、延べで結局受けていただいた方が4万600人の方に数学検定を受けていただきました。

その結果として市内の小学校で全国平均を上回っている所もいまだにあります。あと国語検定が始まり、市内の学力がすごく上がっています。実は市内の学力が落ちていると思われがちなのですが、今はその当時よりもだいたい10%から15%学力平均点が上がっています。子どもたちには、すごく可能性があるんで、その子どもたちにたくさん可能性を追求してもらって、学力を上げていただいて自分が望む世界に羽ばたいていただきたいです。戻ってこない子どもたちもたくさんいると思うのですが、それをやっていただきたいということで、今年の後藤年度でも湿原の体験学習だとかにつながっていると思います。

私のわがままから始まったものが、少し継続事業としてやって結実しているのかなと思います。

その時は、台北中央ロータリーとは姉妹都市提携をしたり、台湾から小学生を呼んで交流コンサートを釧路ロータリークラブ主催でやったり、あと海外に私は5回ほど行きました。

プーケットで水の事業をやったり、ブータンに行ってお手洗い場を供給したり、ブータン世界で一番着陸するには危ない空港だとかあって、死ぬつもりで小船井さんと一緒に死ぬ間際には小船井さん文句言ってから死のうと思いつつながら着陸したのを覚えています。

そういった形で釧路ロータリークラブの方々は本当に協力を荒井先生はじめ協力していただいている事業を成し遂げたのかなと思いますが、時間がなかったので、自分のアイデアで考えたもの、プラス本当は会長の想い、プラス皆さんが考えた何かを足して、倍くらいの事業にしてもらえたらよかったのかなと、私は思いました。

私も言葉がつかなくて、皆さんに説得するのに時間がかかったり、事業が十分できなかった所を反省しています。

90周年、100周年で充実した釧路ロータリークラブが地域のために何ができるか、日本のために、世界の

ために何ができるかを考えて、時間があるのでいい形の周年をしていただいて。予算の話がありましたが、80周年は1,200万円の予算でやりました。志田先生が講演料を安く抑えてくれて、数学検定も3600人に寄付をするのですけれど、100万円でやってくれたので安く押さえられたので結果として1,000万円位しかかかりませんでした。

高いか安いかわかりませんがアグレッシブにトライして皆さんが地域のための活動につなげていければいい周年になると思います。

「釧路クラブ、ここにあり」と皆さんに協力いただいでできたのかなと思って、感謝もしておりますが、もっともっとできると思っております。あと3年、よろしく願いいたします。高橋さんに指名された会長さん、指名されそうな人はもう想像していただいたらありがたいと思います。

以上です。

木下パスト会長ありがとうございました。それでは60周年、70周年、80周年とスピーチをいただきました皆さまに改めまして拍手をお願いします。それでは残り時間も少なくなってきました。ここで皆さままで手をつなぎ輪になっていただきまして手に手をつないでを斉唱したいと存じます。皆さまご起立いた

き輪になってお手をつなぎますようお願い申し上げます。

(手に手を繋いで)

中締め挨拶 高橋 直人会長エレクト



皆さま、諸先輩の前に中締めの挨拶ということでご指名ですので、皆さんご用意下さい。

今日は、87周年にちなんでということ

で例会を開き、諸先輩の50周年、60周年、70周年、80周年と本当に素晴らしい歴史と伝統のある釧路クラブ。私もこのクラブに入って本当に自慢でございます。

皆さん、ぜひともこれからこの釧路クラブを90周年に向けて頑張っていきたいと思っております。というか、私、90周年の指名会長ですので何とか私の専権事項ですので、プレッシャーは結構かけられていますが。まだ自分の年度もかけられていません。それは、心と決めまして頑張っていきたいと思っております。

それでは本日の皆さま方の会員とご健勝と釧路クラブの繁栄を願ひまして3本締めで締めようと思ひます。

